

南三陸町 東日本大震災からの創造的復興



創造的復興の一丁目一番地

南三陸
311メモリアル
MINAMISANRIKU
311 Memorial

基本原則

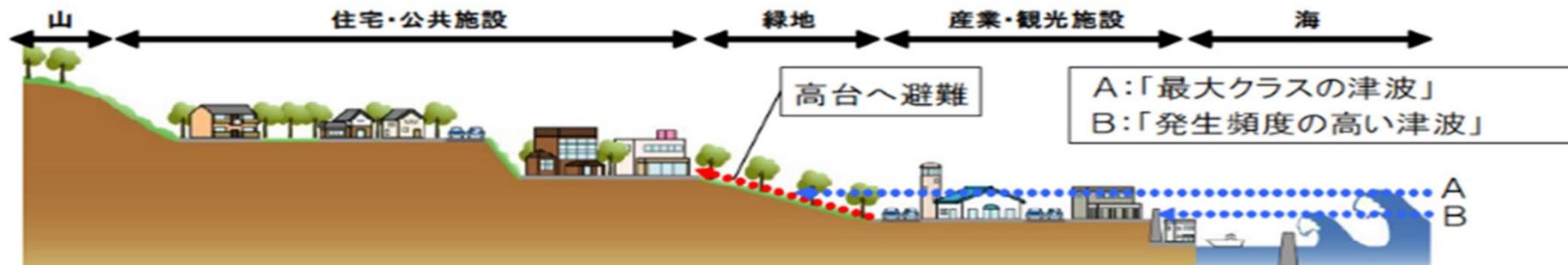
なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に

当町の歴史は、津波災害との闘いと言っても過言ではありません。

1896年の明治三陸津波、1933年の昭和三陸津波、1960年のチリ地震津波、
そして2011年の東日本大震災。

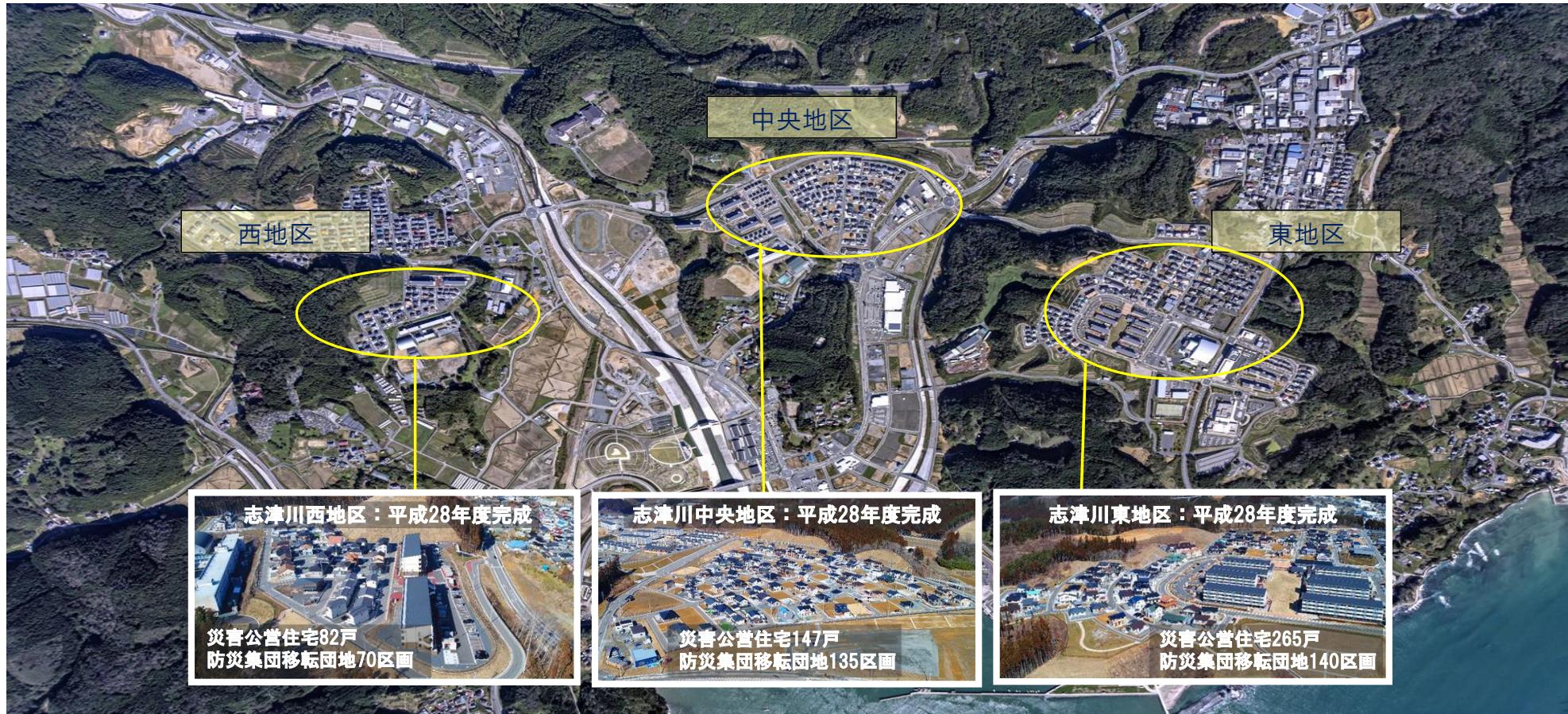
1960年のチリ地震津波では、41名の方が犠牲となり、町ではこの災害を教訓に防潮堤の整備や
避難訓練など、防災のまちづくりを実施してきました。

しかし、想定外の被害を及ぼした東日本大震災を経験して、「もう二度と津波で命や財産を失わない」
まちづくりに取り組みました。



➡➡➡ 高台移転の実施！！

安心して暮らし続けられるまちづくり



01 事前復興・事前防災の重要性 -復興のスピードと財源-

- ◆被害想定→復興プランを平時に策定
- ◆仮設住宅・高台移転の団地選定
- ◆公共施設の集約・縮小・廃止
- ◆広域避難への備え
- ◆地域医療の確保
- ◆災害対策本部の機能確保
- ◆逃げたくても逃げれない人がいる

02 受援計画を策定しておく

- ◆プッシュ型支援(応援職員の役割と物資の整理)

03 公正にはやるが 公平には出来ない

- ◆必要なものが必要なだけ来ることはない

04 行政には限界がある (自助・近助・共助・公助)

- ◆日頃から率直に住民に伝える

05 自分の命が助かってこそ 他人の命を救える

- ◆人を助ける職務に携わる使命感

06 避難訓練と防災教育の重要性

- ◆訓練に勝る防災なし

07 今やるべき優先順位を考える

08 遠隔地との災害応援協定を締結

09 情報を発信し続け、記録を残す

◆トップが記者会見を。記録は次の災害への備え

10 災害ボランティアセンターを すぐ立ち上げる

◆ボランティアは将来の応援団

◆行政の仕事の一部をカバーしてくれる

11 女性目線を大切にする

◆災害対策本部の苦い経験

13 人づくりの大切さ

◆持続可能な地域づくりへの原動力

14 職員はスーパーヒーロー 職員にしかできない仕事を優先